

# くぜ 久世 竜 (1908~1985)



**殺陣師**。東宇和郡中筋村(現、西予市)出身。本名は河野幸政。叔父の誘いで故郷を離れ神戸の中学校に通う。久世を商人にしようという叔父の思惑をよそに活動写真に魅せられ、18歳のときに俳優になりたい一心で、日本映画の父と呼ばれた牧野省三を京都に訪ね、師事した。

昭和2(1927)年、省三の長男・マキノ正博の紹介で京都日活に俳優「岬弦太郎」の芸名で入社、以後端役で様々な映画に出演したが、昭和14(1939)年、マキノ正博監督の「浮名小路」で殺陣師をつとめてから、俳優と殺陣師の両方で活躍する。名優・月形龍之介に殺陣を付けたのが縁で「龍」の一字をもらい、「久世竜」と改名した。

昭和29(1954)年、東宝に入社、黒澤明監督と出会い、殺陣師としての才能が開花した。資料、文献を丹念に研究した上での

計算された久世の殺陣は、リアリズムを重視したもので、刀、槍、素手での鮮やかな立廻りは人々を驚かせ、黒澤明、三船敏郎コンビの映画にはなくてはならない存在となった。

## 略歴

|                  |   |
|------------------|---|
| 明治41(1908)年1月19日 | 東宇和郡中筋村に生まれる。   |
| 大正15(1926)年      | 牧野省三に師事   |
| 昭和2(1927)年       | 京都日活に芸名「岬弦太郎」として入社  |
| 昭和14(1939)年      | マキノ正博監督の指示で、初めての殺陣を月形龍之介の映画で付ける(「浮名小路」)。                                |
| 昭和17(1942)年1月    | 大映に移籍   |
| 9月               | 宮城千賀子劇団に参加  |
| 昭和20(1945)年2月    | 宮城千賀子劇団を退団  |
| 4月               | 東横映画(昭和26年、太泉映画、東京映画配給と合併して東映となる)に入社                                    |
| 昭和27(1952)年      | マキノ雅弘監督「弥太郎笠」封切。殺陣師として始めて映画制作に参加  |
| 昭和29(1954)年7月    | 東映を退社   |
| 9月               | 東宝に入社   |
| 昭和33(1958)年      | 黒澤明監督の「隠し砦の三悪人」封切り。この中で槍の殺陣を指導  |
| 昭和36(1961)年      | 黒澤明監督の「用心棒」封切り。この中で殺陣を指導  |
| 昭和37(1962)年      | 黒澤明監督の「椿三十郎」封切り。この中で剣術指導<br>第7回ホワイト・ブロンズ賞受賞<br>稲垣浩監督の「忠臣蔵」封切り。この中で殺陣を指導 |
| 昭和40(1965)年      | 黒澤明監督の「赤ひげ」封切り。この中で擬闘を指導  |
| 昭和42(1967)年      | 第11回映画の日永年勤続功労章受章   |
| 昭和50(1975)年      | 東宝を退社   |
| 昭和55(1980)年      | 黒澤明監督の「影武者」封切り。この中で武家作法を指導  |
| 昭和59(1984)年      | 黒澤明監督の「乱」撮影中に入院   |
| 昭和60(1985)年1月5日  | 76歳で永眠  |

(写真提供：中野圭氏)

### 〈関連図書〉

- ・『えひめ 人 その風土』 愛媛放送株式会社 1986年
  - ・永田哲朗『殺陣 チャンバラ映画史』 社会思想社 1993年
  - ・阿部嘉典『映画を愛した二人 黒澤明 三船敏郎』 報知新聞社 1995年
  - ・西村雄一郎『黒澤明を求めて』 キネマ旬報社 2000年
  - ・『久世竜～時代劇に革命をもたらした殺陣師～』 愛媛県生涯学習センター 2013年
- 〈主な収蔵資料〉…(P229~231, 154~164)